

研究課題名	院内心停止蘇生後患者に対する post-Cardiac Arrest Syndrome for induced Therapeutic hypothermia (CAST) score の神経学的予後予測能の評価
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗
研究期間	許可日～ 2024年 3月 31日
対象者	2015年1月から2022年4月の間に、広島大学病院、JA 広島総合病院、市立大津市民病院にて、18歳以上で院内心停止から自己心拍再開 (Return of Spontaneous Circulation: ROSC) を得て体温管理療法 (Target Temperature Management: TTM) を行われた患者さん
意義・目的	過去の無作為化比較試験の結果から、心停止後症候群 (Post Cardiac Arrest Syndrome: PCAS) の神経学的予後の改善を目標として体温管理療法 (Target Temperature Management: TTM) が行われています。TTMによって良好な神経学的転帰を得られることが期待される患者を、その導入前に予測するためのスコアとして、post-Cardiac Arrest Syndrome for induced Therapeutic hypothermia (CAST) score が開発され、これをより単純化した revised CAST (rCAST) score は PCAS 患者の神経学的予後を高精度で予測することができました。CAST score および rCAST score の院内心停止患者の神経学的転帰の予測能は明らかでなく、本研究はこの評価を目的とします。
方法	本研究は、診療録 (カルテ) 情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は組入日、年齢、性別、初期波形、心停止目撃の有無、ROSC までの時間、動脈血液ガス (pH, 乳酸)、Glasgow Coma Scale の Motor 値、頭部 CT における The Gray matter attenuation to white matter attenuation ratio: GWR、血清アルブミン、ヘモグロビン、バイスタンダー CPR の有無、経皮的冠動脈形成術の有無、TTM の有無、TTM の目標体温、ROSC までのアドレナリン静注と除細動の有無、30 日後の生命予後と CPC です。 カルテから氏名や住所等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないように加工した上で、広島大学に情報を集め解析を実施します。
研究実施体制	研究代表機関 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗 共同研究機関 JA 広島総合病院 桜谷 正明 市立大津市民病院 藤野 光洋
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-4532

広島大学病院救急集中治療科 石井潤貴